

第8期清掃・リサイクル審議会 答申に向けた意見整理

検討の視点	委員から出された意見
プラスチック資源循環	リデュース（発生抑制）をできるだけしたい。そのために分別は必要なことだと思う。
	生活の習慣が、少しでもリデュース（発生抑制）につながるということもある。
	プラスチック製品を買わない、使わないに「捨てない」をプラスしてはどうか。
	薄いプラスチックを回収する取り組みを進めていただきたい。
プラスチックの搬入先 (中間処理施設)	合理的な距離で、合理的な値段で見つけられるのか。具体的な場所とコストが、分別をやるかやらないかの判断の重要なところになる。
	選別施設とか地域の方にご迷惑をかける要素のあるような施設を自区内に持たないで他の所をお願いするのはいかがなものか。
	中間処理施設みたいなものを、本当に世田谷区の中につくれないのか。できるだけ閉鎖式の施設にして、臭いや音などが漏れないような感じで作るとか。
	中間処理施設が身近な場所にあることで、学習や啓発にもつながるのでは。
経費	中間処理施設を区内に作り、近隣区も使えるように誘致してはどうか。
	方向性としては、当然分別をしてリサイクルしていく話だと思うが、分別の作業の問題とか労力の問題とか、どれくらいお金がかかるのか比較しながら考えていく話かと思う。
	区でこのプラスチックの課題にどれだけの予算がかけられるのか、区の他部門との兼ね合いもあると思う。審議会からの提案については、ハードルの高い低いもふまえて議論すべきでは。
	CO2を本当に削減したい、環境のため気候変動のためっていうことであれば、思い切ってどんなにお金がかかっても、中間処理施設が外部になってしまったとしても、CO2削減に最終的に繋がるのであればその方法を選んだ方がいいのでは。 1年間で1人当たり2,000円程度であるならば、許容範囲内とも考えられると思う。総額で見えてしまうと非常に莫大な金額であるが、特に1人当たり・1世帯当たりの負担額で考えると数字が小さいのかなと思う。
国や事業者への働きかけ	使った後のことだけではなく、使う前、つくる段階から減らすよう、国やメーカーに対しても要望を上げていくべき。
	国に、プラスチックはプラスチックでも、何の材料でできているのかっていうことをわかるようにすべき、という意見をあげることが必要だ。
	対処療法ではなく、つくる責任、つかう責任を考えてもらいたい。命が脅かされている現状に問題意識を持ってほしい。
	プラスチック分別収集や中間処理の問題は、23区全体で考えていくべき問題だと思う。
区民への協力依頼方法	ペットボトルの回収は、事業者にまかせてはどうか。
	以前から、拡大生産者責任が進んでいないと感じている。容り法でペットボトルの回収を自治体がすることになっているが、新法の施行で自治体の負担が大きくなるため、ペットボトルメーカーが回収をしたらどうか。
	区民に色々な協力をお願いするっていうことは、その効果は見える化できたほうが良いと思う。
	分別収集したものがどのように私たちの生活に戻ってくるか見える化して、リサイクルに協力してよかったという実感をもってもらいたい。
その他	プラスチックをどんなふうに出してほしいかというのを区民にお知らせしてはどうか。
	プラスチックは洗って出すように周知するべき。
	プラスチックの回収を有料化することで、区民の問題意識も変わってくるのでは。
	区民が捨てたものを処理するためには費用がかかる、という認識を持っていただくことも大事なのではないか。
その他	北区のお知らせが分かりやすく良いと思う。
	家にある使っていない生地について、回収してはどうか。
	海外に輸出された古着が引き取ってもらえず結局捨てられている。捨てられた衣服には石油を原料とする化学繊維が使われているため、分解されずに土壌汚染の原因となっている。
	排出した場所にかかわらず、分別の取組みを、ニュースなどで区民に公表していただきたい。
その他	どういふ答申を出すのかは、例えばABCのCが金額で妥当だということを出す話ではなくて、上流にさかのぼるなどの提言を出すのが役割だと思う。